



沖田 ゆかり 議員

Q 高齢者のごみ出し支援を

A 住民生活部長

障がいをお持ちの方も含め、持続可能な制度としてサービス提供をする必要があると考えている。

【Q1】 高齢者の方からは、集積所までの距離が長く道路を横断しなければならぬため、朝の通勤ラッシュ時には危険が伴いたいへん負担であると聞いているが。

【A1】 20世帯で一つのごみステーションを設けるルールだが、遠方の場合20世帯に足らなくても柔軟な対応もしている。迷惑施設であるため設置の許可が得られない状況もあり、ご不便をかけている。

【Q2】 高齢者のごみ出し支援については見守りも兼ねているなど紹介したが、今後、具体的に支援の方向性を考えているのか。

【A2】 既に実施されている自治体の中には、安否確認などを行って声掛けをするものもある。

関係者と協議をして今後の方向を検討したい。

【Q3】

高知県佐川町では、75歳以上の高齢者や要介護者、障がい者など支援が必要な家庭のごみの搬出に協力してくれる自治会に対して、一世帯当たり月千円の協力が交付されている。地域住民の助け合いやつながりを促すとのことで参考にしたい。

【A3】 自治会の負担等もあるため、自治会連合会に相談して検討する。



Q 女性の視点からの防災・復興を

A 住民生活部長

会議などへの女性参画を進めるとともに、女性を含めた防災サポーターを育成していく。

【Q1】 東日本大震災における教訓として、防災や復興の政策、方針を決める過程に女性が参画していないことが挙げられているが、熊野町における防災会議の女性委員の割合は。

【A1】 委員数25人のうち女性は2人で、構成割合は8%となっている。

【Q2】 女性の視点を大切にすることが、災害弱者を守ることにつながる。第5次男女共同参画基本計画では、地方防災会議の女性委員の割合を2025年までに3割にすることを目標としているが。

【A2】 女性委員枠を設けるため条例改正を行い、女性委員を増やす取り組みを行っている。

【Q3】 災害対応力を強化する女性の視点、防災復興ガイドラインでは、避難所の開設、運営の取り組みポイントとして、管理責任者に女性と男性の両方配置することや、避難者の自治的な運営組織に女性の参画を促すなどが挙げられているが。

【A3】 避難所の運営については男性職員が中心になっているが、女性職員も配置している。今後は地域の女性の方に参画していただき、より充実した避難所の運営ができるようにする。



福垣内 邦治 議員

Q 町施設における住民サービス・Wi-Fi設置は

A 町長

憩いの場として整備していきたい。Wi-Fiは現在のところ筆の里工房以外は設置を見送っている。

【Q1】 町の施設における子どもたちの使用状況は、ぜひ子どもたちだけでも利用してほしいが。

【A1】 下校時の立ち寄り禁止しているが、利用を控えるようにとの指導はしていない。騒いでうるさい等の苦情の際は職員から注意喚起している。



【Q2】 健康維持のため長距離を散策されている高齢者の方も増えた。一時休憩所としての利用促進は。

【A2】 地域健康センターなど気軽に立ち寄っていただきたい。簡易テー

ブルやいすのセット、自販機もある。指定管理者とも話し合い、工夫してまいりたい。

【Q3】

若い人にはインターネットの有無は重要なことだ、設置を進めてもらいたい。

【A3】 平成30年7月豪雨の際に役場庁舎ロビーに一時的に設置したことがある。

今後のWi-Fi整備の考え方の変化に応じて検討していきたい。



Q 三村町長の政治姿勢を問う

A 町長

町政の安定的継続と発展に尽くすため、多くの方々の期待をいただき立候補した。

【Q1】 13年前の選挙で町長に当選した。その後は全て無投票再選。名実共に立派な町長になってもらうため、裸の王様でないようにチェックするのが議員の役目で、議会制民主主義の基本である。よって利害関係が無く中立で町民視点の私が質問する。

【A1】 連続無投票再選で町長は、町民から信頼があると自信満々に持つておられる。初めて立候補した目的と経緯を伺う。

【Q2】 町政の安定的継続と発展に尽くしたいとの思いと、多くの方々の期待があり立候補した。



【Q2】 虚実混交という都合が良いよう事実を作り替えるという言葉がある。私は、当時の選挙の様子を見ていた。平本前町長の後継として立候補したのではないのか。

【A2】 選挙の様子は13年前のことなので覚えていない部分もある。平本町政の継承が大きな一つの柱であったことは間違いない。